

パリンジック® Web講演会

2024年5月24日(金)
18:00-18:30

当院における パリンジック® 治療による副作用対策

座長 香川 礼子 先生 広島大学病院 小児科

演者 森本 彩 先生 広島大学病院 小児科

オンライン視聴登録方法

ご視聴の際は、事前登録をお願いいたします。
下記 URL よりご登録をお願い申し上げます。

Zoom Webinar 事前登録 URL

<https://x.gd/BSsCA>

二次元コードからのご登録も可能です



当院における パリンジック®治療による副作用対策

座長

広島大学病院 小児科
香川 礼子 先生

演者

広島大学病院 小児科
森本 彩 先生

ペグバリアーゼ (パリンジック®) の有効成分であるフェニルアラニンアンモニアリアーゼ (PAL) は、フェニルアラニン (Phe) をBH4非依存的にアンモニア及びケイ皮酸に代謝する。PALはシアノバクテリア由来の酵素であり、外来酵素に対する免疫反応を軽減する目的でペグバリアーゼはポリエチレングリコール (PEG) 化されている。しかし、PEG化により免疫反応を完全に抑制することはできず、特に投与初期においては過敏反応を主体とした副作用が必発する。副作用の対策をしながら投与を継続することにより、免疫応答が減弱化して安定し、過敏反応は減少する。さらに、ペグバリアーゼの血中濃度は安定し、血中Phe濃度は低下する。

演者はアレルギー専門医であり、当院におけるペグバリアーゼ症例の副作用マネジメントに携わっている。本講演では当院での経験をもとに、ペグバリアーゼの副作用マネジメントに必要な医療チーム体制、患者指導内容、実際に実施した副作用対策について共有する。